

# 多様なレベルに最適対応

新晃工業

## 外気処理空調機中核に構成

技術部長代理と話す。一般にクリーンルームは①外部の塵埃・細菌・汚染物質を持ち込まない②クリーンルーム内でのゴミの発生を抑える③汚染物質を溜めない④塵埃・汚染物質の速やかな排除を前提とする。同社もこれらの事項を踏まえ、乱流、ダウンフローなど各方式の空調設備を最適提案する。

製品軸では外気処理用空調機、ドライコイル、ドライコイルユニットなどをラインアップ、用途、要求レベルに応じて最適な構成を提供する。外気処理用空調機は、年

間を通じて安定した給気温度の供給、外気に含まれる塵埃・ガスの除去を行う。24時間運転に対応したベルトレス仕機、リミットロード特性を備えたファン搭載などにより、緊急時のバックアップ運転を実現し、多様な形態のクリーンルームに対応している。ドライコイルはクリーンルーム内の生産機器からの熱負荷を、発生する箇所で顕熱冷却コントロールする。最適な熱交換を行うことで良好な環境を維持する。

新晃工業では安定需要の製薬、大学に加え、国内半導体分野からの受注も目指しており、今期末頃に積み増ししたい考え。

空調機器総合メーカー、新晃工業（社長＝武田昇三氏、本社・大阪市北区）は、高潔浄度、汚染物質の除去、高効率、省エネのそれぞれについて高度なレベルの技術が求められるクリーンルーム用空調分野で、外気処理用空調機を中核に幅広く対応、市場で高い納入実績を積み上げている。

新晃工業は、国内で産業用クリーンルームが誕生した当初から同分野向け空調関連機器を手がけてきた。産業用クリーンルームの導入先で代表格は半導体、液晶工場だったが、同分野での生産体制の再編進行に伴い、大学の研究室、製薬などが主な需要先として顕在化してきた。同社でも「研究室、製薬向けなどに適年で安定した受注を確保できている」（藤原博史、